

松風中学校の校歌・校章に関するアンケートの実施結果について（報告）

1 実施概要

(1) 目的

松風中学校の校歌・校章の制作に当たり、生徒の思いや声を大切にし、主体的に関われる機会を設けることについて、生徒と保護者の意向を確認するため、アンケートを実施した。

(2) 対象

- ア 生徒 297人
- イ 保護者 274人（保護者は各世帯1人のみ回答）

(3) 実施期間

令和7年6月25日（水）～7月1日（火）

(4) 実施方法

- ア オンライン（タブレット、スマートフォン等による回答）で行った。
- イ 回答は、生徒と保護者のいずれも任意とした。

(5) 調査内容

- ア 校歌・校章の制作に生徒が関わることについて
- イ 制作委員会の設置について
- ウ 参加しやすい活動内容について

2 実施結果

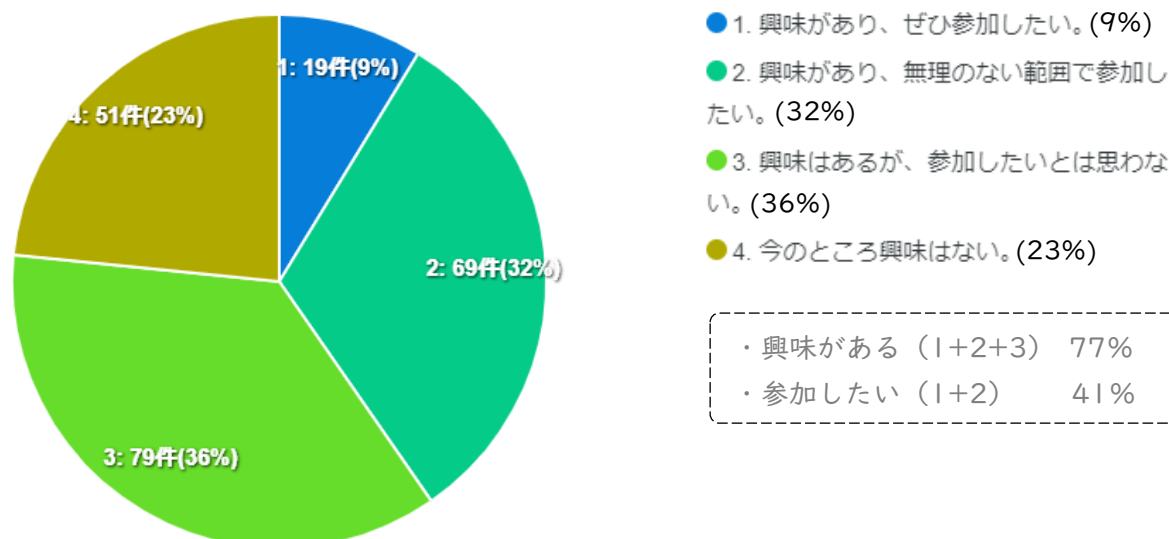
(1) 回答者数

- ア 生徒 218人（73.4%）：対象者数297人
- イ 保護者 101人（36.8%）：対象者数274人

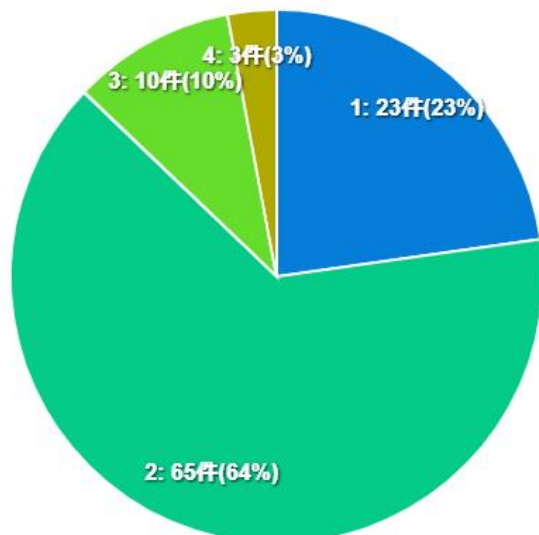
(2) 結果

問1 生徒が校歌・校章の制作に関わることについて、どう思うか？

<生徒>



<保護者>



- 1. 生徒が希望すれば、ぜひ参加させたい。(23%)
- 2. 生徒が希望すれば、無理のない範囲で参加させたい。(64%)
- 3. 負担が大きいと思うので、生徒を参加させたいとは思わない。(10%)
- 4. その他 (3%)

・希望すれば参加させたい (1+2) 87%
 ・参加させたいとは思わない (3) 10%

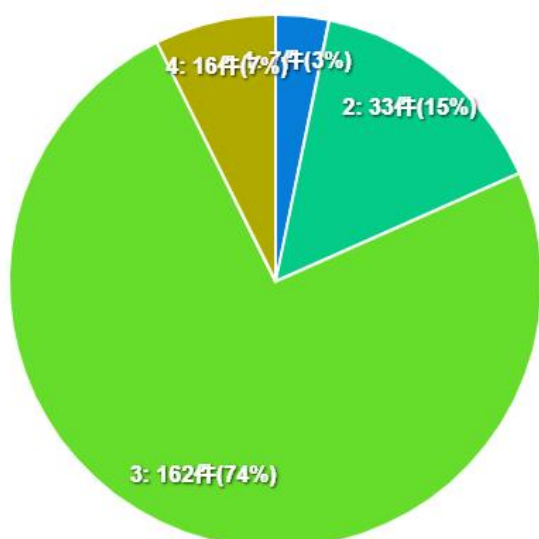
■その他 (自由記載)

※主な意見を抜粋

- ①無理のない範囲で参加させたいが、生徒全員に絶対提出の宿題とするのはやめてほしい。負担に思う生徒もいるはず。
- ②子どもたちによる制作ではなく、プロによる原案を、投票等で選択する形で関わって貰うのが理想ではないかと考えます。
- ③校名変更等々に関わるることについては、教育委員会や統合準備委員会などで独断に決議させたことですので、在校生に何か決めさせる様なことはやめるべき。在校生に責任を負わせることはやめていただきたい。

問2 校歌・校章を制作するため、希望する生徒による「制作委員会」を設置することについてどう思うか？

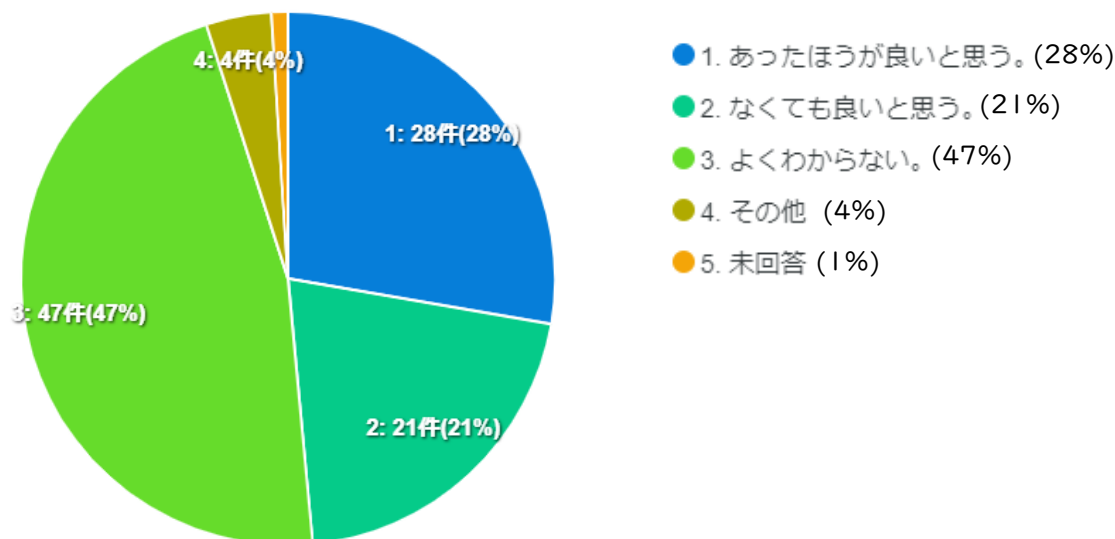
<生徒>



- 1. あったほうが良いと思う。(ぜひ委員になりたい。)(3%)
- 2. あったほうが良いと思う。(無理のない範囲で協力したい。)(15%)
- 3. あっても良いが、委員になりたいとは思わない。(74%)
- 4. なくても良い。(7%)

・設置して良い (1+2+3) 92%
 ・制作委員会に協力したい (1+2) 18%

<保護者>



■その他（自由記載）

※主な意見を抜粋

①やりたい意欲のある人がいるなら、あった方が良くと思う。
②生徒たちの負担がないように配慮等があれば、設置しても構わないと思います。
③まだ何か月かで、子どもたちもまだそこまでの思い入れはないだろうし、今後ずっと続くものを決めると言われても、戸惑うと思う。
④現在の在校生を巻き込まないで欲しい。

問3 どのような活動をしてみたいか？（生徒のみ）

どのような活動なら参加しやすいと思うか？（生徒・保護者）

※問2で、「制作委員会があったほうが良い」を選択した場合のみ回答。

<生徒>

■校歌に関する意見

※主な意見を抜粋

①在校生一期生としてみんなで歌詞を考え、思い出に残る校歌にしたい。
②歌詞に地域の特徴を入れて、学校の人だけでなく、地域の方々も歌えるような曲にして、50年後も歌われているような校歌にする。
③久慈中と坂本中の良さを引き継ぎながら、松風中らしい校歌にしたい。
④地域の伝統や昔ながらの風習を大切に、松風中学校の校歌に取り入れ、子どもたちの未来を拓く学校としての誇りを持つことのできる校歌にしたい。一人一人の意見や思いを大切に、次世代の【生徒とともに創り上げていく学校】として、新たな一歩を踏み出すことのできる制作をしていきたい。
⑤松風中学校にちなんだ歌詞づくりをみんなで考えたら良いと思う。
⑥どんな歌詞を入れると良いかを話し合っ、地域・学校の良さが伝わる校歌を考えてみたいです。まとまりのある活動なら参加しやすいと思います。
⑦久慈中学校と坂本中学校の、2つの良さが味わえる校歌を考えたい。
⑧松風をイメージできる曲を考えたい。
⑨歌詞をみんなで決めること。地域の特徴について皆で話すこと。
⑩みんなで歌詞を考えたり、イメージを作ったりしてみたい。

⑪地域の良さが伝わるような歌詞を考えたいです。
⑫どんな学校なのか、これからどんな学校にしていきたいのか意見を言い、歌詞が書けるよう協力したいです。今の松風の良いところを歌詞に乗せて伝えていきたいです。

■校章に関する意見

※主な意見を抜粋

①元久慈中生と元坂本中生で話し合い、2つの学校の校章のデザインをもとにしつつ、新しい校章を作りたい。
②校章は坂本中と久慈中のもともとの良さを組み合わせ、それに加えて新しい要素も取り入れた、新しくもどこか懐かしさを感じさせるものにする。
③簡単なものであれば 校章のデザインを考えてみたいです。
④デザインを話し合い、決まったデザインについて同じ委員会の人と協力してイラストを書きたい。
⑤イラスト等が得意なので、校歌にあった校章のデザインを描く。イラスト関連なら参加しやすいと思いました。
⑥イラストが得意なので、出た校章の案をまとめたい。
⑦イラストを描くのが得意なので、応募された案をもとにみんなで話し合っ、校章のデザインを決めたいです。
⑧絵が得意なので、応募案をもとに校章デザインをしてみたい。（2～3人程いると良いと思います。）
⑨絵を描くことが得意なので、イラストについて考えたい。

■その他（校歌・校章制作全体への意見など）

※主な意見を抜粋

①みんなの意見をもとに、校歌や校章を決めていきたいです。進んで意見を出したいです。自然に囲まれている久慈町ならではのフレーズが出てくると思います。
②この学校がある日立市の良さと、活気のあふれる松風中学校の良さを伝えられるような校章、校歌を考えてみたい。
③みんなの意見を取り入れた、唯一無二の松風中学校の校歌と校章を制作したい。
④全校生徒からアンケートなどをとったりして、学校全体で制作したい。
⑤応募された案をもとに、どのような思いを込めた校歌や校章をつくるのかを考える。
⑥生徒全員にアンケートを取り、みんなが過ごしやすい快適な学校を作っていきたい。
⑦新しい学校としてリスタートするため、現代の価値観をもとに生徒たちが主体になって校歌や校章を話し合っ、考えたい。

＜保護者＞

※主な意見を抜粋

①やってみたい、やりたいと思う生徒を募り、その中で分担などを決めたり話し合いをしながら進める。
②子どもたちの学校なので、それぞれにチームを作り、いろいろな意見を取りながら、考えていくのはいかがでしょうか。
③全生徒から案を募集し、制作委員会はその取りまとめや、候補を絞って再度複数案から投票などをして絞っていくといった方法なら、より多くの生徒が参加して、作ったという想いが強くなれるのでは。
④生徒たちで決めれば、校歌・校章への愛着が出て良いと思う。

⑤校名決めた時のことがあるので、子どもたちの意見が言える場があるのは良いと思います。役割を分けるにしろ、募集するにしろ、決める過程を公表することを希望します。
⑥募集の案は、個人だけでなく、校歌なら吹奏楽部、校章なら美術部や黒潮タイムの物作り系コース等が活動の中で話し合う機会を設け、グループで案を出せるようにしたり、募集後も制作委員会に意見できるようにしたりしてみても良いと思います。
⑦役割ごとに分担して話しやすい場があれば良いと思う。
⑧例えば、校章はデザインを描いてみたい生徒の作品を集め、全校生の投票多数決で。 校歌は、心に刺さったり、心に残ったりするようなワードを全校生に書いて貰い、その中でたくさん出てきたワードの上位を取り入れ、組み合わせて制作する。一生残るものとして、作詞という経験を多くの生徒に経験して欲しい。
⑨やりたいことをやらせてみたら面白いと思う。
⑩学校名には、子どもたち(在学生)の意見が反映されなかった。クラスでまとめた案を吸い上げてほしい。
⑪役割ごとに分けてあれば、やりたいグループに入りやすくて良いと思う。
⑫黒潮タイムのような感じで進めるのが良い。それぞれの得意分野を選ぶ感じで。制作の中で自分が何かに関わったという経験が愛校心につながるし、良い思い出になると思います。
⑬役割でグループ分けをして、それぞれが得意、不得意ではなく、やりたいグループに入り、人数は等分にする。
⑭役割ごとにグループを分け、無理のない時間で、やりたい生徒がやりたい役割をできたら良いと思う。
⑮最終的な意見は今いる生徒、これから学校に通う児童のものを大切にしてほしい。
⑯グループ分けをして、作成できる生徒がやったほうが良い。
⑰活動内容というより、子どもたちの意見がきちんと反映されるように、問題なく進めてほしい。なるべく意見がまとまりやすいように、クラスか学年などに分けて意見を出し合い、最終的に全体での話し合いが必要ではないかと思う。
⑱生徒全員が作詞に関われるようにアンケートを取り、一言ずつ繋げて作詞する。(制作委員会の負担軽減)
⑲全学年から委員が出ることが望ましいと思います。1年生でも発言しやすいよう配慮してあげてほしいです。
⑳活動日を月曜と木曜日にすれば、部活動をやりたい生徒も、制作委員会に立候補しやすくなると思う。
㉑得意分野別に、数人程度のグループをつくる。

以 上